

去の統計曲線の単純な延長に華麗な未来があるといった長広告は、もはや人々を納得させない。GNPや自動車保有台数は、それだけで平安の日々を保証しはしない。ありとあらゆる文明の利器にとりかこまれながら、70年のテーマソングは欲求不満にほかならなかった。漠とした、しかし、ぬぐいがたい暗い予感がここにある。汚れた大気の中で慢性気管支炎のノドをおさえるサラリーマンも、カドミウム米を刈り取る農民も、泥の海にたのみ少ない網をうつ漁民も、なにかどこか間違っていると感じている。このままでいけば、未来は天国ではなく地獄かもしれないと思いはじめている。……われわれはたぶん、われわれ自身の思いあがり謙虚に反省しなければならないのだ。故郷、自然、季節、人情といった言葉のもつ意味を、あらためてかみしめてみるのが、おそらく大切なことなのだ。われわれがいつのまにか失ってしまったものの貴重さに、もう一度気づく必要がありそうだ。われわれの所業が虚無への行進だとするならば、まず立ちどまって、おのが位置を確認することだ。立ちどまることのできるのも、また人間の英知なのである。』と。

## 未来の計算機

電気部 水島幸治

未来の計算機について、userの一人としてまた、個人としての意見を述べたいと思う。

まず、記憶装置であるが、現在の装置は計算機の本体に比べ、容積が非常に大きく、電力を多く必要とする。そこで、一つの考えとして、人間の脳を応用することである。人間の脳はあれだけの容積で、莫大な量を記憶する事ができる。応用の仕方として、計算機に脳を結合し、計算機の一システムとして使用する事と、将来を見こして、脳の記憶の機能を利用し、これを機械的にまた化学的にまた電氣的に置きかえることがある。この事については、まだまだの事であるが、これを研究する事は、脳のまだわからない事を研究する事と同じであるから、医学的見地からも必要な事であると思う。話しが少し横にずれたようなので元にもどそう。

記憶装置はこのような考えがあるが、計算機本体のほうも、まだまだ高速にする必要があり、伝送ラインの方もエラーを防ぐためにも、減衰の少い、歪みの小さいラインを使用する必要がある。人間の神経はあれだけの距離をほとんど減衰も歪みもなく、信号を伝達する。記憶装置と同様に、伝送ラインにも、医学的分野である神経を電氣的に解釈し、応用すれば、現用のものと比べかなり、良好な伝送が得られるのでなかろうかと思われる。

ほかにも、いろいろな人間の機能を計算機に応用できる面がある。そこで、この応用こそ計算機を大きく、進展させ、計算機の応用範囲も増えてくるのではなかろうかと思われる。

## 計算機とは

古 吾 古

今日では、情報化社会という掛け声と共に、計算機は、非常に日常的な「言葉」となりつつあります。新聞を開いても、計算機、もしくは、情報云々という活字を見ない日はない毎日です。そこで、一体今の社会で、一般の人達は、計算機をどの様に受け取っているかを考えてみるのも、おもしろいのではないかと思います、二、三の人に聞いてみました。

プログラムとの格闘で疲れた頭をしばし休めて読んで下さい。

「あなたは、計算機という言葉から何を、連想しますか？」

「正確」。これは、僕が最初に血祭にあげた、下宿のおばさん。長年の学生相手の生活からか彼女は、何によらず、一応の理解はしている様で、僕の問いにもそつなく、唯の一声で答えて